

「北九州市環境基本計画」（改定案）に対する意見の概要と
北九州市環境審議会事務局の考え方

【反映結果】

- ① 計画に掲載済（一部掲載を含む）
- ② 計画の追加・修正あり
- ③ 計画の追加・修正なし（今後の参考等とする）
- ④ その他

1. 計画全般に関するもの（5件）

No.	意見の概要	北九州市環境審議会事務局 としての考え方	反映結果 (関係箇所)
1	この環境基本計画が、先陣を切って、SDGsに取り込んでいるのは、今後の北九州市における全庁的取組のモデルとなりうるもので、素晴らしい。今後各部署で、単に自分たちに関係する目標だけを取り上げることがないように、環境計画においては、環境関係のSDGsの目標にとどまらず、広くSDGsの目指す「誰一人取り残さない」や他の目標を、環境計画に織り込んでいただきたい。それこそが、環境首都ブランドデザインの基本理念にかなうものと思う。	本計画の実施に当たっては、第4章の基本施策④「SDGsの実現に向けた取組と環境ガバナンス」に盛り込んだとおり、関係部署とも連携し、横断的に進めていきます。	① P67
2	市の取組を広く海外にアピールし、海外の政策立案関係者にとって参考文献となるように、英訳版（少なくとも概要版は）も作成されてはいかがか。	ご意見のとおり、本市の環境首都ブランドの確立のためにも、英語資料の作成を含めて検討を進めていきます。	③
3	2018年に国連でSDGsの個別目標のレビュー（6：水、7：エネルギー、11：都市、12：消費・生産、15：陸の生態系）が予定されており、市が強い分野の目標が対象となっている。また、2019年には首脳級ハイレベルフォーラムが予定されている。このような国際的日程を念頭に、タイムリーに市の取組をアピールできることを期待する。そのためには、市の目標、ターゲット、指標の策定や自発的レビューの実施も近い将来、必要になると思う。	ご意見のとおり、本市の取組をタイムリーにアピールすることが重要であり、毎年度のPDCAサイクルの実施とともに、その結果の国際的発信を進めていきます。	③
4	専門用語やアルファベットが多く、一般市民が理解するには少々難しさを感じる。	ご意見を参考に、用語集を追加するとともに、適宜注意書きを追加します。	② P202～ ほか
5	せっかく多くの時間と労力を費やして作成したのだから、計画改定後は、この計画をどうやったら周知できるのかを会議にかけるべきでは。広く市民への周知・徹底を望む。	ご意見を参考に、今後、本計画の周知に向けた検討を進めていきます。	④

2. 主題、副題、はじめに関するもの（4件）

No.	意見の概要	北九州市環境審議会事務局 としての考え方	反映結果 (関係箇所)
1	主題に計画の対象年度を加筆すると分かりやすい。例えば、「第3次 北九州市環境基本計画（平成29年度～平成33年度）」など。	ご意見を参考に、計画に計画の対象年度を追記します。	② 表紙
2	副題にSDGsを盛り込むことは大きな決意の表れだと思いで、市にとってSDGsを盛り込む意義やSDGs自体の説明を一つの章などにまとめて記述した方がよいのでは。 また、形式的に、主題、副題ともに「～計画」で終わると、2つの計画が並列的にあるように見える。「世界の環境首都を目指し、国連の持続可能な開発目標（SDGs）を通じて実現する」といった叙述的な副題はいかがか。	ご意見のとおり、SDGsを盛り込むことは大きな決意であり、そのため、第2部の第3章にまとめて記述しています。 一方で、本市のこれまでの環境首都グランド・デザインに基づく環境への取組は、SDGsを先取りしたもののといえ、両者は一体不可分であり、SDGsを一箇所に全てまとめるのではなく、各部・各章にも記述をしています。同時に、主題（環境基本計画）と副題（環境首都・SDGs実現計画）も実質的に不可分一体であり、両計画名を併記しています。	① P19 表紙
3	表紙：タイトルの副題は必要か。副題をつけることで誤解を与えないかと気がかり。目次の記載内容も環境計画の構成がとられている。	環境基本計画は、北九州市環境基本条例に基づく法定計画という性格とともに、環境首都グランド・デザインの行政計画という性格を有しています。更に今回、そこに環境面からのSDGs実現を図るための行政計画という性格が付与されました。そのため、これらの性格を明示することが市民にとって分かりやすく、計画の実効性確保に繋がっていくと考えています。	③ 表紙
4	「はじめに」のタイトルに含まれる、「地方創生（基本施策1に対応）」はキーワードだろうが、該当本文には出てくることなく、唐突感がある。該当語句をタイトルから削除しても良いのでは。	ご意見を参考に、記述を修正します。	② P1

3. 第1部 計画の策定にあたってに関するもの（3件）

No.	意見の概要	北九州市環境審議会事務局 としての考え方	反映結果 (関係箇所)
1	第1部第1章のタイトル「北九州市のこれまでの取組」と内容が対応していないと思われる。「市の環境に関わる主な取組」というような表現のほうが内容を表しているのでは。	第1部第1章は、環境基本計画に関する「北九州市のこれまでの取組」を記載したものであり、ご意見のような「市の環境に関わる主な取組」に沿った表現であると考えています。	③ P3
2	「環境首都」については、環境未来都市や環境モデル都市と混同しやすいので、本文の中でもう少し説明する必要があると思う。	本計画における「環境首都」は、環境首都グランド・デザインから引用したもので、その内容は計画中に記載しています。また、追加する用語集でも説明をします。	② P11 P12 P204

3	「計画の対象地域（13頁）」の説明文が不明瞭。推敲してはどうか。	ご意見を参考に、市民に分かりやすい表現に修正します。	② P 13
---	----------------------------------	----------------------------	-----------

4. 第2部 環境基本計画の目指すものに関するもの（6件）

No.	意見の概要	北九州市環境審議会事務局としての考え方	反映結果 (関係箇所)
1	SDGsは、「グランド・デザイン」の策定プロセス、基本理念に共通しているものがある。また、SDGsがバックキャスティング（理想世界の提示から、やるべきことを逆算）により、目標が誕生したことも市の公害問題時代、市民の「青い空がほしい」という希望から、公害を克服する技術や政策が生まれ、さらには、近年、「最終的には廃棄物をゼロに」、「超低炭素社会の先に脱炭素社会を」といった市が描く世界観は、野心の表明から社会のパラダイムシフトが生まれることを期待するバックキャスティングの精神に共鳴する点も注目すべき。このような点も背景を説明すると良いのでは。	ご意見を参考に、SDGsがバックキャスティングをベースとしており、また、本市の近年の取組もまた、バックキャスティングをベースにしていることを追記します。	② P 19
2	SDGsの大きな特徴である目標間の「相関性」（1つの目標からの他の目標への波及効果）についても言及すると良いのでは。本文に「本市の強みを活かせる分野かどうかといった観点から、それぞれ異なるアプローチを考える必要があります」と記述されていますが、ここに相関性（ネクサス）アプローチを用いることも考えられる。 例えば、市の強みと位置づけられている「安全な水」、「クリーンエネルギー」、「産業」、「質の高い教育」などは、市に残された課題として位置づけられている「海の豊かさ」や「陸の豊かさ」になって最終的には現れるものではないか。市のコンテキストで具体的に相関性を分析することで、残された課題への解決の糸口となることを期待する。	SDGsの各ゴールがそれぞれ相関し、相互に影響を与え合うのはご意見のとおりです。 ご意見を参考に、SDGsに向けた本市の様々な取組が相互に連関し、相乗効果を与える事例を追記します。	② P 22
3	北九州が日本のSDGsの先進的事例として、既にいろいろな場で取り上げられていることを紹介するのも良いかと思う。2017年7月の「持続可能な開発のための国連ハイレベル政治フォーラム」で、日本の官民パートナーシップ(PPAP)を通じたSDGs貢献として、ブノンペンでの水改善事業が冒頭に映し出されたこと、日中友好環境保全センターとの協力が、「平成29年度 環境白書」で「北九州市のSDGs達成に向けた取組」として事例紹介されているなど。	ご意見を参考に、記述を追記します。	② P 20

4	第2部第3章「本市の強みの残された課題」に、SDGsのゴール5のジェンダー平等を入れてはどうか。	ジェンダー平等については、非常に重要な SDGs の一つであると考えています。 そのため、ご意見を参考に、公害克服の原点となった婦人会活動の記述を追加するとともに、ESD の推進、若年者・女性・高齢者の就職促進などの取組において、環境問題の解決に女性の役割が大きいことを認識しながら環境政策を進めていきます。	② P 27 P 65
5	基本理念における「真の豊かさ」の定義にも関わらず、本市の強みを生かしたSDGsへの貢献（第2部第3章）に、目標5ジェンダー平等と女性と少女のエンパワーメントが含まれていないのは、基本理念に掲げる「多様性、公平性」の追求に反すると言える。2030アジェンダでは、ジェンダー視点の主流化は、2030アジェンダの実施に不可欠と言っているにもかかわらず（パラグラフ20）、以後の環境関係の目標にジェンダー視点が含まれていない。 また、北九州市における現状から見ても、目標5は、「既にある程度達成され本市に残されている課題」であるとともに、「今後の課題」でもある。第2部第3章において、本市の取組から目標5が外される理由はなく、是非含めていただきたい。		
6	第2部第3章のグラフ、既にある程度達成と残された課題は左右反対が良い。	ご意見を参考に、グラフを修正します。	② P 21

5. 第3部 4つの政策目標とその基本施策・施策分野に関するもの（27件）

No.	意見の概要	北九州市環境審議会事務局としての考え方	反映結果 (関係箇所)
1	第3部第1章「北九州環境ブランド」枠にSDGsのゴール6、7、9、11を追加してはどうか。	ご意見のとおり、第3部第1章の取組の中でも、SDGsのゴール6、7、9、11に貢献するものがありますが、他の章の取組でこれらのゴールにより詳細に取り組んでいることから、役割分担を図っていません。	③ P 26

2	<p>本市の強みを生かしたSDGsへの貢献について、「14海の豊かさを守ろう」は本市に残された課題としてとらえ、政策目標3（基本政策④）及び、政策目標4の中に位置付けられているが、政策目標1基本施策④国際協働等を通じた北九州環境ブランドの確立の中にも位置づけることができるのではないかと。</p> <p>特に、曽根干潟は、国や国際的な機関から、生物多様性や国際的な希少種の生息・保全の観点から国際的な基準を満たす重要な湿地として評価されている。東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ（EAAFPP）等の国際的な渡り鳥の重要生息地ネットワークに参加し、国際的な連携や協力の先頭に立つことで、北九州環境ブランドは一層高まる。</p> <p>ラムサール条約登録に向けては、様々な解決すべき問題、地元の理解と賛成がなければならず、ハードルは高いが、外部からの評価や期待に応えながら、できるところから取組を進めていけば、知名度も一層上がり、エコツアー等の観光客の増加にもつながっていくと思う。</p>	<p>ご意見のとおり、本市の誇る曽根干潟や平尾台などの自然環境拠点は、環境ブランドにも活かせるものと考えています。</p> <p>例えば、「(3) 環境分野の国際会議・国内イベントの誘致・開催」の中で、本市の誇る環境関連地区の一つとして「響灘ビオトープ」を挙げていますが、他の自然環境拠点も追記します。</p>	② P 33
3	<p>第3部第2章「脱炭素化社会」の枠にSDGsのゴール12を追加してはどうか。</p>	<p>ご意見のとおり、第3部第2章の取組はゴール12にも貢献するものがありますが、第3章において、ゴール12により詳細に取り組んでいることから、役割分担を図っています。</p>	③ P 34
4	<p>第3部第2章に「超低炭素社会（一般化した語句では未だない）」という語句が使われているが、「超」を削除した「低炭素社会」のほうが理解しやすいのではないかと。</p>	<p>「超低炭素社会」は、環境首都としての本市が、日本全体で2050年80%削減に貢献するために、先駆的に地球温暖化対策に取り組むためのこれまでの「低炭素社会」を超えた新たな将来像として提示したものであり、「低炭素社会」とは異なるものです。</p>	③ P 35
5	<p>改定案に、これだけ環境を意識して環境首都として世界のトップを走っていく覚悟をもって突き進もうとしているにも関わらず、「市庁舎を建て替えて世界のトップクラスの行政庁舎に造り替える」という文言が入っていない。シンボルとして、市庁舎を我慢の必要が無いゼロエミッションと超低炭素仕様の建物へと進化してほしい。</p>	<p>市庁舎の建て替えについては、公共施設のマネジメント計画を踏まえてなされるものであり、その建て替えに当たっては、環境面のみならず、費用面等を踏まえて検討すべきものと考えています。</p> <p>今後、建て替えの議論がなされる際には、可能な限り省CO2が図られるようにしていくように検討していきます。</p>	③

6	一旦CO ₂ を取り込んだ樹木を燃やしてCO ₂ を排出しても、CO ₂ が増えたことにならないという考え方はおかしい。CO ₂ を減らすのが本当であるのに、一旦取り込んだCO ₂ をまた大気中に戻しているのか。	バイオマスの燃料利用の考え方については、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）によるガイドラインに基づき、日本政府においてCO ₂ 排出にカウントしないこととされています。	④
7	次の語句について、見直してはどうか。 37頁：破壊的なイノベーション → <修正例> イノベーション 38頁：進めます。 → <修正例> 支援します。 39頁：エネルギー資源 → <修正例> エネルギーシステム	ご意見を参考に、記載を修正します。	② P39 P40 P41
8	低炭素社会を目指すべく、低炭素電力と安価な電力供給のため、環境基本計画に低炭素電源である太陽光発電を位置付けていただきたい。具体的には、「北九州市地域エネルギー拠点化推進事業」に太陽光発電の整備のための施策検討を加えていただきたい。	太陽光発電の促進については、計画の至るところで取組を進めることとしています。例えば「(1) 地域エネルギー拠点化の推進」において、太陽光発電を含めて様々なエネルギーの導入促進を図ることとしています。	① P41
9	COP21 のフランスから提起された1000分の4 食料安全保障と気候の為に土壌イニシアティブが全く取り上げられていない。	地球温暖化対策における農地での炭素貯留機能に関しては、農地の保全や、持続可能な農業の推進を図ることで推進していきます。	① P66
10	未利用バイオマスを従来の石炭と同様に燃焼して熱エネルギーの活用以外に炭にして直接炭素循環を改善する方向にシフトすべきと考える。 また、ものづくりの街北九州市に炭作りを復興させたいと考えており、行政、企業との協働で取り組む必要があると考えている。 地球温暖化対策、経済的弱者の仕事確保、食料の安全保障等、SDGsの目標に沿って活動したいと考えているが環境基本計画に必要な文言の記載がないので、修正、追加を要望する。	本市では、増大する竹林対策として、バイオマスエネルギー利用以外の利用についても様々な検討が進められており、ご意見を参考に、記載を追加します。	② P39
11	第3部第3章「循環システム」の枠にSDGsのゴール2を削除、13を追加してはどうか。	ご意見を参考にゴール13を追加します。 ゴール2については、食品ロス削減や農地の保全などの取組に関わる重要なゴールであると考えています。	② P44
12	第3部第3章、基本施策①3Rプラスの推進に、L I Bのリユース・リサイクルとレアメタルの再生を入れてはどうか。	ご意見を参考に記載を追加します。	② P49

13	<p>第3部第3章「循環システム」基本施策④、生物多様性の確保による自然循環の「生態系の場・保全を進めます」について、開発行為はアセスメント制度に関係しないものが多くみられる。市は、許認可行為で判明した開発行為全般についてチェックし、貴重な生物や環境等がみられる場合には必要に応じ有識者からの助言を受けるなどして保全を図るべきと考える。また、生態系情報の収集は保全に役立てるための情報として活用するよう心がけるべき。</p>	<p>環境アセスメント制度や自主的ガイドラインなどを活用し、生態系の場や種の保全に資するよう、ご意見を参考に対応していきます。また、その際には、収集した生態系情報の活用も図っていきます。</p>	③ P 54
14	<p>環境アセスが生態系保全に役立っていない。響灘地区では次々と風力発電施設が建設されているが、すでに鳥類が風車の羽根にはじき飛ばされて犠牲になっている。しかし、何の対策も実施されず、新たな犠牲が出る懸念がある。現に絶滅危惧種が犠牲になるなど重大な影響が起きている。産業優先の中ではアセスの効果は乏しい。</p>	<p>環境アセスメント制度や自主的ガイドラインなどを活用し、生態系の場や種の保全に資するよう、ご意見を参考に対応していきます。</p> <p>一方で、開発が複数進むことに対する累積影響の評価手法については、国において検討が始まっており、本市においても、ご意見を参考に今後検討を進めていきます。</p>	③ P 54
15	<p>鳥類が風車の犠牲になり、アセスもない大規模な太陽光発電は野生生物から生息場を奪っている。自然エネルギーと野生生物が共存していくために北九州市は何をすべきか、検討している場合ではない。今すぐ立ち止まって対策を打たなければ、北九州市の生物多様性戦略は絵に描いた餅となる。響灘埋立地のチュウヒやミサゴの状況をみればわかる。</p>	<p>環境アセスメント制度や自主的ガイドラインなどを活用し、生態系の場や種の保全に資するよう、ご意見を参考に対応していきます。</p> <p>一方で、再生可能エネルギーと野生生物の共存が図られるよう、事前の適地抽出やゾーニングを進めていくとともに、大規模な太陽光発電の設置から廃棄までにかけての環境保全については、ご意見を参考に今後検討を進めていきます。</p>	③ P 54
16	<p>第3部第3章「循環システム」基本施策④、生物多様性の確保による自然循環の「森里海保全への取り組みを進めます」について、現在の北九州市の森は、孟宗竹林が繁茂、放置されており、森の水源涵養の機能が失われている。「荒れた樹林、竹林の改善・保全推進」を行い「水源涵養の増進と里山資源の活用」といったことに目を向けるべきと考える。</p>	<p>ご意見のとおり、本市における竹林の繁茂が生態系への悪影響のみならず、水源涵養の観点からも問題を引き起こしていることから、ご意見を参考に記載を追加します。</p>	② P 55
17	<p>第3部第3章「循環システム」基本施策④、生物多様性の確保による自然循環の「自然環境情報の深化・統合と人材育成、ネットワーク構築を進めます」について、人材育成は、特に中高年のパワーを活かした育成が大きな力になると考える。高齢化が進み、団塊の世代といわれる方々で健康な方々が市内には溢れている。専門家を交えた中高年層の人材育成は、市内の自然環境保全に役立つものと考え。</p>	<p>ご意見を参考に、市民を対象とする自然環境に係る人材育成を通じて、中高年の方々の人材育成もあわせて進めていきます。</p>	① P 30

18	<p>生物多様性保全のためには、法的規制が必要不可欠である。</p> <p>曾根干潟：開発から守るために一日も早く鳥獣保護区指定、ラムサール条約登録湿地となり、法的規制によって開発から守らなければならない。</p> <p>平尾台：市内の中学生がラムサール条約登録に向けて活動しているが、次代を担う彼らに平尾台を健全な状態で残すためにも、北九州市も登録推進に向けて早く動くべきである。</p> <p>自然環境調査も大事だが、そのデータを保全に生かさなければ調査の意味がない。調査のための調査になっているのではないか。</p>	<p>ご意見のとおり、生物多様性保全のためには、法的規制も重要な取組であり、そのため、今後、「重点地域の設定やゾーニングなど本市全体における生物多様性の悪影響を抑制するための方策を検討」することとしています。また、その前提として、合目的な自然環境調査を行っていきます。</p> <p>ご意見を参考に、今後、曾根干潟や平尾台の保全に向けた検討を進めていきます。</p>	① P 55
19	<p>市内に緑が少なく、市は一部市民の苦情（落ち葉が迷惑など）ですぐに切る様に見える。市民には「環境都市」として木を大切にすることを意識を広め、もっと市内に木を増やしたらどうか。また、落ち葉は市やボランティアで掃除・回収して、市が腐葉土ビジネスを展開してはどうか。</p>	<p>都市緑化については、第3部第2章の「自然資本の維持と活用」等で盛り込んでいます。</p> <p>落ち葉については、地域における回収やコンポスト等の取組を実施しています。</p>	① P 39
20	<p>第3部第4章「環境・経済・社会の統合」の枠にSDGsのゴール7を追加してはどうか。</p>	<p>ご意見のとおり、第3部第4章はゴール7にも貢献するものですが、ゴール7は第3部第2章でより詳しく取り組んでおり、役割分担を図っています。</p>	③ P 35
21	<p>第3部第4章のタイトルで、「将来世代を考えた」は不要ではないか。</p>	<p>SDGsや環境首都グランド・デザインでは、限られた地球環境を将来世代に引き継ぐことを主眼としており、第3部第4章でも、重要な観点として記載しています。</p>	③ P 57
22	<p>大気汚染（空気が臭い）について、市内の循環バスを（ディーゼル排気規制強化を飛び越え）全て電動化してはどうか。市内にはバッテリーメーカーもあるので、バス会社と市と三者でコラボして、市バスの電化システムを作り上げれば、市の雇用増加や他の自治体への展開（売り込みや見学需要）も期待出来る。</p>	<p>ご意見を参考に、バスのEV化についての取組みを追記します。</p>	② P 38 P109
23	<p>気候変動（地球温暖化）対策としての適応策は、59ページに触れられているものの、内容不十分ではないかと考える（計画全体としてみた時、緩和策に偏りすぎているか）。市民の日常関心事を踏まえると、洪水、それに伴う複合災害への取組、農業への対応策、健康問題（熱中症対策など）に関わる施策がもう少し具体的に上げられることが望ましいように思う。</p> <p>再エネ設備導入との関連では（例えば60頁）、自然災害リスクへの対応策も取り上げるべきではないか。</p>	<p>適応策については、ご意見のとおり、市民の安全・安心にも関わってくるものであり、非常に重要な課題であると認識しています。ご意見を踏まえ、関係部局で連携して適応策に積極的に取り組んでいきます。</p> <p>また、再エネ設備導入に関しては、第3部第4章の基本施策①の（4）環境防災力の強化において、自立分散型エネルギーの導入により、災害時にもエネルギー確保ができる施設の整備を図ることとしています。</p>	① P 62 P 63

24	<p>現在、市内ではほぼ全ての道路がアスファルト舗装されているが、アスファルトは水を弾くので、今後は、透水性の舗装（レンガを埋め込んだようなもの）に切り替えたらどうか。</p>	<p>透水性舗装の推進については、気候変動に対する適応への取組（第3部第4章の基本施策①（3））の一環として、取組を進めていきます。</p>	① P 6 2
25	<p>視野の広い計画作りを感じさせるのは、“景観の保全とうるおいのある街並みの形成”などの項目も掲げている点で、大変重要な視点と考えるが、“うるおい”がどのような状態を意味しているのか明確ではないのと、（歴史的建造物や空家の問題等のみのためか）やや物足りなさを感じた。しかし、見ただけで美しい街並みを作っていくことは、難しいことながら、人々にとって大変分かりやすく、地域の魅力を増すことに繋がり、それ自体十分に“環境”問題のひとつととらえてよいと思う。その魅力に魅かれてそこに住みたいと思う人が増えることは、本市の人口増加に向けた諸施策にも合致するものと思う。</p>	<p>ご意見のとおり、景観や街並みを環境における重要な分野であると認識しており、今後も関係部局と連携して、環境・経済・社会の統合的向上の観点から、景観の保全、うるおいのある街並みの形成を進めていきます。</p>	① P 6 4
26	<p>先駆的な廃棄物行政としては、PCBの受け入れなどは、実績として、日本全体、社会全体への貢献度の極めて高い英断であったが、さらに、CO2の貯留や、核廃棄物の処分といった、「超」のつく難問に対しても、オープンな議論ができる土壌、風土が醸成されるなら、“環境都市北九州”の“国際的な知名度”向上、“環境ブランド”一層の向上に繋がるものとする。</p>	<p>「北九州環境ブランド」の確立に向けて、ESD等を通じた環境人材の育成や、環境リスク等に関する対話の推進などを進め、市民環境力の更なる発展を進めていきます。</p>	① P 3 0
27	<p>計画には、「全てのレベルの柱、目標、施策、個別プロジェクトをSDGsに紐付ける」とある。効率的に紐付けるために、政策目標の4本の柱を、SDGsの共通言語・枠組みの沿った構成にはいかがか。新しい政策の柱に、SDGsのビジョンとして掲げられている5つのP (People, Prosperity, Planet, Peace, Partnership) を活用することを提案する。日本政府のSDGs推進本部が平成28年に決定した「SDGsを達成するための具体的施策」においても、この5Pに沿って、具体的施策が分類されている。</p> <p>一例として、下記のように、政策目標を再分類することも可能かと思う。</p> <p>政策目標1： People -あらゆる人々の活躍の推進 -健康・長寿の達成 ＜該当する基本施策＞ 1-① 環境活動と地域活性化の好循環 1-② ESD等を通じた環境人材の育成 1-③ 市民間の対話・協議を通じた環境リスクへの対応</p>	<p>ご意見のとおり、政策目標や基本施策について、SDGsと紐付けを分かりやすく示していくことが重要であると考えています。</p> <p>ご意見を参考に、SDGsのゴールに沿って基本計画の柱、施策について、更に分かりやすい記載を追加します。</p> <p>なお、ご意見を参考に、アジェンダ2030の重点事項である5つのPについても追記し、その活用について今後の進捗管理の中で工夫していきたいと考えています。</p>	② P 2 2

	<p>政策目標2： Prosperity -成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション -持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備 <該当する基本施策> 2-② 超低炭素社会を実現する社会経済・技術・ライフスタイルの・・・ 3-② 循環システムを支える施設整備・技術開発と循環産業拠点都市・・・ 4-③ 環境産業育成と国際的なビジネスの推進</p> <p>政策目標3： Planet -省エネ・再生可能エネルギー、気候変動対策、循環型社会 -生物多様性、森林、海洋等の環境保全 <該当する基本施策> 2-① 超低炭素社会を支えるストック型社会への転換 2-③ 次世代エネルギー拠点の総合的な形成 3-① 3Rプラスの推進と資源効率性向上 3-③ 化学物質や有害物質の適正処理・適正管理 3-④ 生物多様性の確保による自然循環</p> <p>政策目標4： Peace -平和と安全・安心社会の実現 <該当する基本施策> 4-① 安心・安全でレジリエントなまちづくり 4-② 環境と社会にやさしい快適なまちづくり</p> <p>政策目標5： Partnership -SDGs 実施促進の体制と手段 <該当する基本施策> 1-④ 国際協働等を通じた北九州環境ブランドの確立 2-④ アジア規模での超低炭素社会実現 4-④ SDGsの実現に向けた取組と環境ガバナンス</p>		
--	---	--	--

6. 第4部 計画の総合的推進に関するもの（6件）

No.	意見の概要	北九州市環境審議会事務局 としての考え方	反映結果 (関係箇所)
1	進捗点検について、環境首都指標（P66）は世間一般的に使われているものなのかまた、指標についての説明がほしい（この指標により何がわかるのか）	環境首都指標は、国の計画で一部用いられていますが、一般的に用いられているものではなく、そのため環境首都実現を目指す本市として先駆的に導入を図るものです。 ご意見を参考に、各環境首都指標の意味について追加で記載をします。	② P17
2	成果指標（66頁）として取り上げられている、「燃料電池自動車の普及台数」、「水素燃料電池自動車への転換によるCO2削減量」については、「-電池自動車」を「次世代自動車」に置き換えたほうが指標として適当ではないか。	ご指摘の指標は、元気発進！北九州プランにおいて、今後取り組む施策に対応する指標として掲げたものであり、現時点で施策及び指標を変更することは考えていません。	③ P70
3	成果指標（68頁）の「響灘洋上風力発電拠点化推進事業の選定計画に沿った、関連施設の設置に向けた協議数と雇用の創出数」について、2022年から洋上風力事業が進むとすれば、今回の計画に加えるのは早すぎないか。少なくとも「雇用の創出数」は削除したほうが良いのではないか。	ご指摘の指標は、元気発進！北九州プランにおいて、今後取り組む施策に対応する指標として掲げたものであり、現時点で施策及び指標を変更することは考えていません。	③ P73
4	SDGsを視野に入れている中で、本計画を踏まえた取組がきちんと進んでいるかを評価する、評価指標等の何らかの基準が定まっていた方がよい。例えば、SDGsについては国連で各項目について評価指標が定められており、北九州市の本計画でも、それらの国連指標のいくつかを踏まえた「計画遂行時＋遂行直後に使用する評価指標の設定」があってもよい。	SDGsの進捗状況を図る評価指標については、現在国連で議論が進められていますが、現時点で同意に至った指標はないと認識しています。 そのため本市では、国連での指標の議論状況も踏まえつつ、本市に合った指標を設定し、それらを用いてSDGsの進捗を図ることとしたものです。	① P69
5	また、その評価指標の実現状況を踏まえた「PDCAサイクル等を踏まえた計画の適宜見直しの可能性」（概要版3ページ）については、計画の中で明示しておくことが有効と思う。	ご指摘のPDCAサイクル等を踏まえた計画の適宜見直しについては、計画本体の第4部第2章の（3）・（4）で記載しています。	① P77 P78
6	65頁（下3行目）： 挿し→ <修正例> 挿し	ご意見を参考に修正します。	② P69

7. 別紙 基本施策を受けた個別プロジェクト施策一覧に関するもの（3件）

No.	意見の概要	北九州市環境審議会事務局 としての考え方	反映結果 (関係箇所)
1	<p>政策目標3（基本政策④）個別プロジェクト③について、事業概要の説明の中の「環境省の重要湿地500」は2001（H13）に選定後、10余年経過によりH26より見直し作業が行われ、2016年4月に「生物多様性の観点から重要度の高い湿地（略称：重要湿地）」として公表されたので、文言の訂正が必要。</p> <p>また、新たに北九州市では、奥畑川河口と大積干潟や、広谷湿原、響灘ピオトープを含む北九州市若松区周辺の湿地群が選定されているので、文章中にも反映させた方が良いかと思う。</p>	<p>ご意見を参考に修正します。</p>	<p>② P164 P172</p>
2	<p>政策目標3（基本政策④）個別プロジェクト③について、成果指標や目標が空白だが、「生態系情報を調査・整備」した成果として、例えば、曽根干潟の生き物パンフレットの改訂を行う（HP等で公開されているパンフレットは、20年近く前の調査に基づくものだと思う）とか、総合調査が予算的に難しいという状況下ではあると思うが、簡単でも良いから曽根干潟のリーフレットなりを新たに作成すること等を目標に、取組の成果を目に見える形にされてはどうか。</p>	<p>ご意見を参考に修正します。</p>	<p>② P164 P172</p>
3	<p>現行計画のレビューとして、別紙の「基本施策を受けた個別プロジェクト施策一覧」における成果指標に対する進捗結果を加筆すると、取組みの成果がより定量的に伝わる。また、主な成果や未達成課題などをまとめて本文にも記述すると分かりやすい。</p>	<p>現行計画（改定前の環境基本計画）と、今回の改定計画における別紙の「基本施策を受けた個別プロジェクト一覧」は、直接の対応関係にはなく、別紙における成果指標に対する進捗結果をもって現行計画のレビューとすることは考えていません。</p> <p>なお、別紙における成果指標については毎年度レビューを行い、改定計画における成果や未達成課題についても記述する予定です。</p>	<p>③ P78 P79</p>

8. その他（5件）

No.	意見の概要	北九州市環境審議会事務局 としての考え方	反映結果 (関係箇所)
1	<p>計画の付録として、語句の説明を加えたらどうか。</p> <p>例えば、SDGs、イノベーション、超低炭素社会（もし計画に使用する場合）、JCM、サプライチェーン、レジリエント、ストック型、コンパクトシティ、ヒートショック、エネルギーマネジメント、シェアリング、モーダルシフト、ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス、クリーナープロダクション、AI、ICT、カーボンプライシング、グリーンファンド・グリーンボンド、スマートグリッド、スマートコミュニティ、コージェネレーション、新エネ（新エネルギー）、エコアクション21、セクター、ゼロ・エミッション、エコツーリズム・グリーンツーリズム、ガバナンス、スプロール化、フードドライブ、グリーンシティ・プログラム、エネルギー消費原単位 など。</p>	<p>ご意見を参考に、用語集を作成します。</p>	<p>② P202～</p>
2	<p>本文で使われている下記用語の意味を一般市民向けにもう少し説明した方が良いと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> -環境首都 -市民環境力 -北九州環境ブランド -ESD -環境リスク -環境リテラシー -アジアの技術首都ブランド -超低炭素社会 -ストック型社会、ストックマネジメント、ストック資源 -3Rプラス（3Rとの違い） -レジリエントなまち -セーフティネット -コンパクトシティ -地域経済循環圏 -JCM 	<p>ご意見を参考に、用語集を作成します。</p>	<p>② P202～</p>
3	<p>最近、一部に「歩車分離」の信号機が導入されているが、時間帯によっては歩行者がほとんどいない状況が多く見られる。歩行者がほとんどいなくなる時間帯（例えば、夜9時から朝6時）は通常の信号切り替えにしてはどうか。また、通常の信号機でも、夜間は一方の交通量が大きく減る場所がある。このような信号機は、夜間は黄色点滅に変更してはどうか。</p>	<p>今回の環境基本計画改定案に直接関わるものではありませんが、福岡県警にお伝えします。</p>	<p>④</p>

4	<p>本市は環境資源（川、海、山、歴史）に恵まれていると思うが、その活用は不十分と感じる。例えば、市内を流れる紫川をもっと浄化して、市内で子供たちが水遊び出来る様に出来ないか。また、かつて出された意見と聞くが、関門海峡にロープウェイを渡し、源平合戦や維新戦争史跡を空から一望して楽しめるように出来ないか。</p>	<p>紫川の浄化や水遊び等については、水質調査に加え、整備事業を通じた自然生態系の保全や市民に親しめる河川整備、100万人のカヌー体験などの取組を進めています。</p> <p>関門海峡のロープウェイ設置のご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>	① P55
5	<p>ムダと感じる公共工事が多い。例えば、門司区、大川橋の架け替え。もう2年近くやっているが、まだ未完である。元々、架け替えの必要性があったのか、その工期は正常なのか疑問。</p> <p>また、門司区、柳町商店街の道路工事。昔からの商店も多く、近隣の高齢者も多くが杖やシルバーカー、時には車椅子で利用している昔ながらの生活道路で、歩道/車道が段差で無く、石柱で区分けされているバリアフリーの道路である。ここに、段差のある歩車分離の道路工事をする必要があるだろうか。</p> <p>社会の実態・必要性にあった公共工事に切り替えるべきである。「将来に必要な工事」をキーワードに、市は案を検討し、業者は必要な技術開発をすべきである。</p>	<p>今回の環境基本計画改定案に直接関わるものではありませんが、ご意見は参考にさせていただきます。</p>	④

9. タウンミーティング アンケート（環境基本計画関連）（4件）

No.	意見の概要	北九州市環境審議会事務局としての考え方	反映結果（関係箇所）
1	北九州市環境基本計画にある「市民環境力」とは、具体的に何なのか。「高度な環境人財」とはどういう人なのか。言葉はかっこいいが、内容がよくわからない。「レジリエント」とか「ストック」とか、お年寄りには多少わかりにくいのでは。	ご意見を参考に、用語集を作成します。	② P202～
2	環境基本計画も子ども達が議論する場があれば面白いのではないか。	ご意見を参考に、今後、環境基本計画を環境教育の教材として活用できるよう検討を進めます。	③
3	SDGsを北九州市の環境基本計画の中に盛り込むことは、非常に重要な取組だと感じる。その取組を市民の皆様とにかくに理解し、普及啓発するかが、課題。ぜひとも市民にも北九州市の取組を知ってもらう工夫を。	ご意見を参考に、環境基本計画のパンフレットを作成し配布するなどして、市民に北九州市の取組を知ってもらうための取組みを進めます。	③
4	SDGsの取組は、生活環境から社会規範教育まで、多くの要素があり、どのように計画に盛り込まれるのか、市民にとってわかりやすい計画にしてほしい。	ご意見を参考に、SDGsと環境基本計画がどのように紐付けされるのか、分かりやすい記載を追加します。	② P21～24